寺だより
'22/12/26
第 107 号

真宗大谷派
青龍山 西光寺
珠洲市正院町正院

「こんなはずではなかった」
我が身に起きたときにしか
気づけぬ私

あっという間に師走です。

ご門徒の皆様のおかげさまでなんとかこの一年を過ごすことができました。

振り返ってみますと今年も新型コロナウイルスに振り回された年でした。

そして、何よりも六月に珠洲を襲った震度6弱の地震により大変な思いをした一年でした。

お取越しに回らせていただきましたが、地震の被害を目の当たりにし、心が痛むばかりです。しかも、大変な中で、西光寺地震被害修繕費を懇志していただいていることに本当に頭がさがります。

ご門徒の皆様には、西光寺を支えてくださり本当にありがとうございました。

近年、日本全国で大きな自然災害が起こっていますが、テレビや新聞で被災地の状況を目にしても自分の住む地域で災害が起きない限り今の自分とは関係がないことだと思い過ごしていました。

ところで今日、二人に一人が癌になり三人に一人が癌で死ぬと言われています。癌の告知を受ければ「こんなはずではなかった」と苦しみ悩み絶望の淵に立たされます。

私たちは誰もが生まれた瞬間に死の宣告を受けているようなものです。

けれども、死と背中合わせの今を生きつつ、そのことを忘れ、何かの拍子に思い出して「こんなはずではなかった」と愕然とするしかなかった人生。

蓮如上人は『白骨の御文』の中で私の命のはかなさを「老少不定」とお示し下さっています。

どれだけ若くても、どれだけ健康な人であっても「無常の風」が吹けばいつ終わるかわからない、はかない命をいま生きているのですよとお示し下さっています。

「こんなはずではなかったと我が身に起きたときにしか気づけぬ私」に、いつどこでどのような形で死を迎えようとも、この人生を決して空しく終わらせないという阿弥陀様の願いは、南無阿弥陀仏となって私のいまここに確かに届いてます。

ありがたいことです。

除夜の鐘のご案内

大晦日（おおみそか）の夜、寺々でつかれる除夜の鐘の音を聞きながら、過ぎ去った一年を思い、新しい年への期待を込めるのが日本人の習慣となっています。

西光寺では、午後11時50分頃から、つき始めます。どなたでもご参加いただけます。一回つくごとに、「キャンディ」をお配りしています。「キャンディ」は一〇八個用意しています。

除夜の鐘の豆知識

除夜の鐘は一〇八回じゃないの!?

除夜の鐘を鳴らす回数は一般的に一〇八回と言われます。それは、煩悩の数が一〇八あるとされる考えにもとづくものですが、浄土真宗においては私たちが持つ煩悩の数は計り知ることができないほどあることから、除夜の鐘の回数も決まりはありません。

鐘を撞くことで自分本位の願いごとをかなえてもらおうなど、何かご利益を得ようとするのではなく、「あれがほしい」「これがほしい」と数え切れないほどの煩悩を持つ自分自身を省みながら、鐘を撞くことが浄土真宗の「除夜の鐘」です。

おかげさま　報恩講勤まる!!

お参りの皆さん

11月6日（日）～8日（火）の三日間にわたり、ご講師に、三崎町杉山の信楽先生をお迎えして、報恩講をお勤めしました。三日間割と暖かく天候にも恵まれて多くのご門徒さんにお参りいただきました。

ご講師の法話は、大きな声でとても聞きやすく、節談も入り、参詣者の方も時には笑いながら真剣に聞き入っておられました。

お花たての作業

お花用の松切り

向拝幕の取付

お花の松切りから始まり、お花立て・幕張・受付・準備から法要終了まで、多くの方々に支えられての報恩講でした。

今年もご尽力頂きました西光寺門徒の皆様、ご参拝頂きました皆様、ありがとうございました

7日には、光照寺住職・善証寺住職による御伝鈔（ごでんしょう）の拝読がありました。

ご門徒さんによる練り出しという作法により、大きな朱ローソクの灯りを先導に御伝鈔がしずしずと運ばれ、厳かに御伝鈔が拝読されました。

御伝鈔の練り出し

御伝鈔は親鸞聖人の孫にあたる、第三代の覚如上人（かくにょしょうにん）がお書きになられた書物で、親鸞聖人の御一代記で、聖人の九歳の出家の場面から、法然上人門下時代やご臨終の様子、本願寺の原型ができるまでが書かれています。

定かではありませんが、かつては『御伝鈔』を拝読するときに短刀を帯びて拝読に臨んだといいます。大相撲の立行司（たてぎょうじ）が帯刀するのと同じ意味です。読み間違えたときは腹を切る覚悟だということです。

そして、最終日八日のお勤めの最後は、

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
骨を砕きても謝すべし

という和讃（恩徳讃）で締めくくりました。

「阿弥陀さまの大きなる慈悲の恩徳は、身を粉にしても報いずにいられない。お釈迦様をはじめとする諸師たちの恩徳も、骨を砕いても感謝せずにはいられない」という意味です。

この和讃は、労力とか、励ましとかそういった目に見えない力に対して私たちはどのように恩を返したらいいか、問いかけています。

多くの人のお世話があって今の私がある、そのことに対しては骨を砕いてでも感謝の気持ちを持ちなさい。ありがとう、ありがとうの感謝の気持ちで死ねる人生を歩みなさい、と教えています。

和讃には題名がというものがありませんが、この和讃だけは「恩徳讃（おんどくさん）」として、皆さんに親しまれ歌われています。

おとりこし終わる

10月11日（火）、岩坂町からスタートしたおとりこしは、12月25日（日）、正院町今町で最終日を迎えました。年に一度のおとりこし。今年も、門徒さん一軒一軒のお内仏にお参りすることができました。ありがとうございました。

「おとりこし」は、真宗において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、各家々で勤めるという大切な伝統行事です。長い歴史を通して、「伝えなくてはならない願いがある」「受け止めなくてはならない尊いご恩がある」と私たちのご先祖や先輩方が、その心を「おとりこし」という行事に込められて、私たちのところにまで届けて下さっています。

親鸞聖人の教えを喜んでこられた先達のお心を大切にさせていただきながら、お参りさせていただきました。

なお、蛸島地区は来年二月、本江寺地区は三月に予定しています。

令和4年度　報恩講志納報告

ローソク料	1,000,000円（1,038,000 円） 274戸（307 戸）
賽　銭	30,251円（16,400 円）

＊（　）は一昨年度

ローソク料・賽銭は、全額西光寺一般会計に入れ、西光寺の維持運営費や永代経や報恩講の法座開催費等に使わさせていただきます。決算につきましては来年度護持委員会で承認後、寺だよりで報告します。

御懇志ありがとうございました。

真宗大谷派経常費（本山上がり）本年度も完納できました!! ありがとうございました。

「真宗大谷派経常費」は宗門運営のため、毎年本山から各寺院へ依頼される懇志金で、各寺院に所属する門徒さんの人数によって割り当てが決まります。今年の各寺院の経常費割当は、七千円×門徒数です。

地震とコロナ禍で大変なところ、ご門徒の皆さまのご理解とご協力により、おかげさまで今年も西光寺に割り当てられた本山上がりを納めることができました。

本当にありがとうございました。

修正会（しゅしょうえ）のご案内

午前零時より、新年最初のおつとめ、修正会を行います。

お正月になりますと有名な神社の初詣の様子がニュースで流れます。

しかし新年にお参りするのは神社だけではないんですね。仏教寺院でも元日の仏事として「修正会」が勤められています。

新たな年を迎えて、仏恩報謝の思いを持って仏さまの前で身と心を正し、あらためて自分自身を見つめ直し、一年を歩み出す新年最初の仏事です。

真夜中ですが、鐘つきに、そして修正会にお参りしませんか。

修正会・2022 年 1 月 1 日

令和５年　年頭挨拶交換のお知らせ

例年通り、一月一日午前六時（ほうらい）より、「食い積み（蓬莱）飾り」を準備したお台子（客間）で年頭の挨拶交換を行います。

今年もコロナ禍を考えお酒はお出ししませんのでご了承下さい。

年回法要は亡き人のご命日を縁として、お勤めする「仏法の行事」です。思い出やご遺徳を偲ぶとともに、生きている私たちが自らのいのちに思いを巡らせ、心静かに仏法を聴かせていただく場です。法事は、命日につとめられることが基本です。

しかし、法事に集う方の都合などを考え、できるだけ参詣の方の集まりやすい日にという配慮から、命日に近い休日に勤めることが多くなってきています。法事はみなさんの集まりやすい日でいいと思います。

来年度に法事を予定されている方は、「2023 年度（令和5年）年回法要一覧表」をご参考になりながら、日程などについては早めにご相談下さい。

2023年度（令和5年）　年回法要一覧表

没　年	年回忌	没　年	年回忌	没　年	年回忌
昭和49年	50回忌	平成３年	33回忌	平成20年	16
昭和50年	49	平成４年	32	平成21年	15
昭和51年	48	平成５年	31	平成22年	14
昭和52年	47	平成６年	30	平成23年	13回忌
昭和53年	46	平成７年	29	平成24年	12
昭和54年	45	平成８年	28	平成25年	11
昭和55年	44	平成９年	27回忌	平成26年	10
昭和56年	43	平成10年	26	平成27年	9
昭和57年	42	平成11年	25	平成28年	8
昭和58年	41	平成12年	24	平成29年	7 回忌
昭和59年	40	平成13年	23回忌	平成30年	6
昭和60年	39	平成14年	22	令和元年	5
昭和61年	38	平成15年	21	令和２年	4
昭和62年	37	平成16年	20	令和３年	3 回忌
昭和63年	36	平成17年	19	令和４年	1 周忌
平成元年	35	平成18年	18		
平成２年	34	平成19年	17回忌		

法事の日取りは、命日を過ぎても構いませんし、日の良し悪しを気にする必要もありません。法事を勤めること、私が「南無阿弥陀仏」と念仏申すことに意義があります。日程などについては早めにご相談下さい。

＝編集後記＝
「おかげさまで」と年暮れる

今年もいろいろなことがありましたが、いつも周りの方々の「おかげさま」で乗り越えてくることができました。

おかげさまは漢字で書くと「お陰様」。木があればその下に陰が出来、この陰があることで雨や暑さをしのぐことが出来るので、お陰様で雨がしのげましたという感謝の気持ちがわいてきます。

私たちは直接目にすることはできなくても人や物、いろんな関わりの中でお互いが支えられながら生かされています。それが「おかげ」であり、感謝の気持ちが「おかげさま」です。

毎年、日本漢字検定協会が全国から「今年の漢字」を募集し、年末に発表されその文字が話題になりますが、今年も私にとっては、あれこれあったものの、つまるところ「お陰さまで」の「陰」に落ち着く気がします。

心豊かに過ごせる未来へ。

まずは、「おかげさまで、なんとか新たな年を無事に迎えられました」と、感謝の気持ちで正月を迎えることができればと思います。

良いお年をお迎え下さい。

南無阿弥陀仏